

尾口は、預金残高を確認するために、銀行に電話を入れた。

「ありがとうございます。あさひ銀行青葉台支店でございます」

「あの、通帳の残高を確認したいのですが」

「かしこまりました。それでは、折り返しお電話でお知らせすることになります  
が、よろしいでしょうか？」

「はい、結構です」

「それでは、お口座番号とお名前をお願いします」

「はい、普通預金の一一六八三四一、尾口功です」

「銀行にお届けになっているご住所と、お電話番号をお願いします」

「住所は横浜市青葉区市ケ尾町一―八―七一、電話番号が〇四五―九一一―一七  
八一です」

「〇四五―九一一―一七八一ですね。かしこまりました。私、芦川と申します。  
すぐにお調べして折り返しお電話いたしますのでお待ち下さいませ」

「はい、わかりました。ではよろしくお願いします」

受話器を置いてから数分後、電話が鳴った。

「はい、尾口です」

「もしもし、あさひ銀行青葉台支店の芦川と申しますが、尾口功様でいらっしゃ  
いますか？」

「はい、そうです」

「先程お問い合わせいただきましたきました、普通預金残高を申し上げますがよろしいで  
すか？」

「はい、お願いします」

尾口はあわててメモの用意をした。

「ただ今の残高、一七万一千四百九十一円となっております」

「一七万一千四百九十一円ですか？ ええと、振込が一件あったと思うんですが」

「そうですか。どちら様からおいくらのお振込ですか？」

「宇野晴男という人から二十一万円振り込まれているはずですよ」

「それでは振込の確認をしてみますので、少々お待ち下さい」

受話器からは保留メロディが流れ、数十秒後・・・

「大変お待たせいたしました。ただ今お調べしてみました。宇野晴男様からの  
お振込は、今のところないようです」

「確かに昨日、手続きを済ませたと言っていたんですけど」

「電信振込か文書振込、どちらで手続きされたかご存知ですか？」

「いいえ、わかりません」

「電信扱いですと当日入金になります。文書扱いですと入金迄に多少お時間を  
いただくことになりますので、おそらく宇野様は文書扱いで振り込まれたのでは  
ないでしょうか？」

「そうかもしれません。ではその場合、入金されるのはいつ頃になるんですか？」

「通常は二、三日で入金となります」

「そうですか。早ければ明日には入金されるかもしれませんね。ではまた明日、  
確認してみます」

尾口は少しホッとした表情で受話器を置いた。